

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0770301703		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	健康倶楽部郡山 グループホーム「希の家」		
所在地	〒963-0201 福島県郡山市大槻町東阿良久37番地 (電話) 024-962-0523		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなビル302号室		
訪問調査日	平成19年11月9日	評価確定日	平成19年12月28日

【情報提供票より】 (19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算	13.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨ラーメン 造り		
	2階建ての 1 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.5 歳	最低 70 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	財団法人 金森和心会、針ヶ丘病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新興住宅街にある鉄骨2階建て2ユニットのホームである。毎月、利用者主体の会議「希クラブ」を開催し、利用者の思いや希望の把握に努めている。自分で意思表示のできない人についても、家族と共に利用者の意向を把握するよう努めている。利用者の何気ない一言を必ずメモし、記録として残しているため、職員も利用者の気持ちがより深く理解できるようになってきている。また、年に2回家族交流会を開催(職員の出しものや手作りのプレゼントを用意)し、家族も積極的に参加してもらえらるため、家族の意向も把握できる。利用者に馴染みのある昔ながらの行事を大切にし、毎月利用者に教えてもらいながら実施している。管理者をはじめ職員全員でサービスの質の向上に向けて取り組んでいる姿勢が伝わってくる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果の要改善点が利用者の金銭管理の支援に関する部分であったため、運営推進会議や家族交流会の際に家族へ説明し、家族の同意を得ながら利用者がお金を持てるよう改善に向けての具体的取り組みをした。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者や管理者が評価の意義や目的を職員に掘り下げて分かりやすく伝え、全職員で取り組んでいる。自己評価は自分を振り返る良い機会であると前向きに取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議では、ホーム内の行事、外部評価結果、指導監査結果、家族交流会、職員の研修会参加状況、今年度の計画等を報告している。運営推進会議で防災に関する地域との協力体制作りを依頼し、地域の消防団の協力が得られることとなった。2月3日に開催した会議の際には、豆まきを実施して委員にも参加してもらい、少しでもホームの利用者状況を肌で感じてもらえるような工夫があった。会議に参加している利用者家族は、ホームが地域に見守られていることを感じ、より安心感が得られた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族宛に利用者ごとの生活の様子や金銭管理状況を報告している。2ヶ月に1度『希の家クラブ通信』を発行し、日頃の利用者の様子(お誕生会、外出ツアー、行事等)を写真で伝えている。また、年に2回家族交流会を実施しており、家族の意見や要望を確認している。出された家族の要望等はどんな些細なことでも申し送りし、職員で情報を共有し、運営へ反映させている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会へ入会し、地域行事(芋煮会、カラオケ大会、夏祭り、盆踊り、七夕等)に積極的に参加しており、事業所でも地域の人達が参加できる健康教室を開催しているため、地域との交流は積極的に行われている。運営推進会議において、災害時の地域との協力体制も確保されるようになった。近くの小学校の児童やボランティアが交流に訪れ、利用者の楽しみとなっている。また、地域の老人会において、職員が介護保険についての説明会等も実施している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年11月に職員と協議し、『お客様が住み慣れた地域でいきいきと暮らしていただけることを大切にする』等と地域密着型サービスの役割を反映した理念に作り替えた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、毎月開催する職員会議の際に、理念を掘り下げて職員に伝えている。また、理念をホーム内(ユニットごと)に掲示しており、職員はいつでも確認することができる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年3回程、地区に「希の家」(地域広報用)を配布している。町内会に入会し、事業所行事の健康教室に地域からも参加してもらい、町内会の行事(芋煮会、カラオケ大会、盆踊り等)に参加する等利用者と地域住民との交流を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を全職員に伝え、改善に向けて具体的な取り組みをしている。評価の意義や目的を共有しながら(評価項目の意味を一つひとつ掘り下げて説明し)自己評価は職員全員で行い、一人ひとりの振り返りの機会としている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回の頻度で開催され、次回の議題（防災について等）を決めたりして、委員全員が発言しながら1時間程度で濃密な会議内容となっている。地域での防災に対する協力を依頼する際は、地域の消防団の人達にも参加してもらい、具体的な話し合いができた。会議内容は職員会でも報告されサービス向上につなげている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回『希の家クラブ通信』を発行し日頃の様子（お誕生会、外出ツアー、行事等）を報告している。誕生会（当日実施）には家族にも出席してもらい、利用者の状況を伝えている。また、年2回家族交流会を開催し、行政監査、運営推進会議、利用者に関する金銭管理、職員の異動、今年度の取り組み等何でも報告し、より良い関係作りをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族交流会・運営推進会議で出された家族代表の意見を職員会議で話し合い運営に反映させている。面会時に聞き取った家族の意見や要望は、申し送りで伝えすぐに対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人間の異動はあまりなくユニット間の異動と退職分の補充である。異動等による利用者へのダメージを少なくできるよう、全ての職員が全ての利用者と同様であることが大切だと管理者は考えており、日頃から実践している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には必要に応じて職員を出席させ、法人内研修も計画に基づき実施している。外部研修参加者は、職員会議で研修報告を行い全体へ伝わる仕組みになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、総合研修での事例検討を通して事業所外の意見や経験を積極的に活かす取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節毎の行事(お正月、お彼岸、子供の日、お盆等)をととても大切に、利用者から職員が教えてもらいながら毎月実施している。また、ダンスの中に紙を敷き湿気を取ることも教えられた。一緒に過ごし共に生活することによって利用者の安心と安定を生み出せるよう工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	至る所にメモ用紙を置き利用者との関わりの中で気づいたことや行動をその都度書き留め職員間で話し合い、利用者の思いや意向の把握に努めている。その内容をセンター方式の書式に記録し、利用者本位の対応となるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族面会時や家族交流会での話し合いの内容と利用者との関わりの中で気づいたことを（些細なことでもメモし）ふまえて担当職員が計画作成担当者と検討し、ケースカンファレンスにおいて全職員で話し合い決めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりの介護計画についてPDCA（計画・実施・評価・改善）サイクルにより毎日モニタリングしている。また、職員は利用者には十分な気配りをしており、利用者の変化にすぐに気づくことができる。家族や利用者の要望と職員の気づきや意見をまとめてセンター方式の様式に記録し、話し合った内容をもとに職員全員でカンファレンスをし、それぞれの介護計画に対して見直しをおこない、利用者の現状に即した介護計画となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）	/		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医等により、利用者が適切な医療を受診できるよう、支援している。家族の通院介助が困難な場合、職員が代行している。職員が代行した場合、通院結果及び薬の処方等について、すぐに家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの重度化・看取りに関する指針を作成し、入居時に利用者や家族へ説明し、同意を得ている。看取りが必要になった場合には、「看取り介護についての同意書」を取るよう準備されている。		看取りの体制の準備がされているので、今後は重度化した際の家族の意志確認書等により家族の意向を確認しながら、職員間で（利用者が自己実現できるよう）対応方針の情報を共有することが大切である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを尊重し、プライバシーには十分配慮した言葉かけや対応をしている。さらに、個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望で買い物、散歩等（利用者職員は1対1や2対1で対応）ができるよう支援している。利用者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。朝寝坊を一人ですべての食事を摂る人もいたということがあった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、後片づけ等、利用者個々の力を活かしながら職員が一緒に行っている。さらに、座位保持のためにクッション等を利用し工夫しながら、少しでも自立して食べられるよう見守っている。また、利用者の好きなメニューを取り入れながら栄養バランスを考えて献立を立てている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方向的に決めているのではなく利用者一人ひとりの週間を把握し、意向を確認しながら、入浴支援を行っている。また、利用者の羞恥心や抵抗感にも配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	職員は、利用者の得意なことを把握している。台所仕事をしたり、写生をしたり、習字を書いたり、ピアノや大正琴を弾いたり、歌を唄ったりとそれぞれに合った役割作りがされている。職員は利用者の生活歴をよく把握しており、利用者一人ひとりの楽しみごとができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	年に1回、個別に利用者の「希望かなえますツアー」を行っており、利用者の出身地等に出かけたり、昔馴染みの人に会いに行ったり、自宅の風通しに行ったりしている。さらに、天気の良い日に2~3人で、散歩や買い物に出かけている。みんなで1階のテラスでお茶を飲むこともある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ドアの開閉により音が鳴るようにチャイムをつけている。また、職員は利用者の行動パターンを把握しており、日中は玄関の鍵をかけずに自由な生活が送れるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を実施している。町会に加入し運営推進会議を通じて地元の消防団の協力体制も確保されている。さらに、災害に備えた備蓄も準備されている。今後は、夜間時の車椅子利用者の避難方法を検討して訓練ができれば、さらに良いと思われる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとに食事量や水分量を常に確認し記録している。利用者に合わせて、粗刻み、刻み、ミキサー食等を提供している。利用者ごとの好みのメニューを把握しており、定期的に体重測定をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、ソファーや食卓用のテーブルと椅子、そして畳コーナーのコタツがあり、それぞれに思い思いの場所で過ごすことができる。季節感が感じられるよう（落ち葉の飾り等が）飾り付けられていたり、利用者の作品（絵、書道作品、ジグソーパズル）を展示している。さらに、毎日の掃除により気になる臭いも感じられない。利用者の状態に合わせて家具の位置も移動（テーブル、椅子、ソファー等を手すり代わりに置いてみたり）している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が自分の好みに集めた新聞の折り込みチラシ（若い女性が写っている）が貼ってあったり、テレビ、タンス、ベッド、鏡台等できるだけ利用者の馴染みの物を持ち込んでもらい利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 健康倶楽部郡山 グループホーム「希の家」

記入担当者名 木村 千佳

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。